

Title	編輯者言
Sub Title	
Author	清水, 潤三(Shimizu, Junzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1961
Jtitle	史学 Vol.34, No.2 (1961. 12) ,p.134(254)- 134(254)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19611200-0135

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙 報

三田史學會例會

第四六八回 昭和三十六年十一月十七日 於三〇一番教室

「世界文化の變遷をたづねて」

前嶋信次氏

前嶋氏はこの十月下旬、一年にわたる歐米の留學より歸朝された。専門の立場より親しく見聞されたエジプト、トルコなどのお話は美事なカラー・スライドと相まつて聽衆を魅了した。

ダフ博士講演會

十月二十日

於三〇一番教室

メラネシヤにおける石斧の諸問題

ニュージールランドの Canterbury Museum の Roger Duff

博士がハワイで開かれた第四回極東先史學會議の歸路來朝されたのを機に講演會を開き盛會であつた。メラネシヤにおける各種石斧の分布状態から推論される諸問題について、最新の知見を得、極めて有意義な催しであつた。なお終了後博士は考古學研究室において、本塾所藏資料を逐一検討され、われわれと活潑な論議が交換されたことも大きな收獲であつた。

梅原末治博士講演會

十一月十六日

於二番教室

銅鼓を中心としたインドシナの青銅器について

昨年春秋二回、「銅鐸新攷」「日本上古古鏡の諸問題」の題下に講演された天理大學の梅原博士が本年も來塾され、御自身で調査された貴重な資料を示されながら、近時學界の注目を集めている「銅鼓」に關して獨自の見解を明らかにされ、われわれを啓發された。また當日御持參の資料を考古學研究室にとどめて研究の自由を許されたことは感謝に堪えない。ここに多年に亘る博士の御好意に對し、改めて厚く御禮申し上げる次第である。

編輯者言

本號は今宮新先生が多年想を練りつづけておられた滞歐中の研究成果を、はじめて發表していただき、一段と意義深きものとなりました。また第三十五卷から會費の値上げが本ぎまりとなりましたが、諸物價高、特に印刷費の上つた今日では止むを得ぬところであろうかと思ひます。各位の一層の御支援を期待いたします。

(清水潤三)